

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901555		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム あげぼの		
所在地	北海道旭川市亀吉1条1丁目2番1号 (電話) 0166-21-7010		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月19日	評価確定日	平成19年11月12日

## 【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14 人	常勤13人, 非常勤	1人,	常勤換算8.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	～全階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,500円
敷金	有( 円)	無	暖房費(10～4月) 6,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	69歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック、くにもと病院、メイプル病院、ほのぼの歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住宅地の中にあり、正面には川が流れ、窓からは四季の山々が見える場所に建ち、生活しやすい建物構造で安心感のある暮らしの場となっています。利用者一人ひとりの尊厳と自立を重視した介護サービスの提供が行なわれているとともに、利用者は、区切られることのない時間を自己のペースでのんびりと豊かな表情で過ごしています。系列が医療機関で、医療のバックアップ体制が整い、家族の安心と信頼に培われて利用者の潤いのある生活が営まれています。理念を具体化するため全職員で目標を掲げ、管理者の指導のもとサービスの質の向上に日夜努めています。また、ホームの地域での役割や責任を自覚し、地域貢献に意欲を示されており、今後の活動が期待されます。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で指摘された場所間違いなどの防止策については、写真や表札、絵等を用い認識しやすい表示となっていました。人材育成のため、評価表を用い職員一人ひとりのスキルアップ向上のためレベルに応じた研修を受講しています。また、研修の年間計画も作成されています。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義・目的を全職員で確認し意見交換がなされています。今回の自己評価の取組課題の一つとして、地域の人たちとの交流が盛んになるような場面作りや来訪してもらえらる方法を現在検討中です。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議において、ホームの概要や運営状況、スライド上映、今後の行事予定などが報告され、地域住民・利用者家族から意見・提案が交わされています。スライド上映は、普段見ることのないホーム内での様子を知ることができたと高い評価を受けています。また、町内向けの広報の継続要請を受け、現在も継続して発行しています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時には、生活の様子や介護・医療の現在の状況を知らせるとともに、ホームの現状と運営について問いかけを行なっています。意見・要望等は、利用者・家族が職員に直接伝えられるような関係が築かれています。重要事項説明書に苦情受付窓口の担当者として外部機関を載せ、ホーム内にも明示し、玄関入口には「意見箱」が設置されています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の諸行事(廃品回収、町内清掃など)に参加し、町内向けの広報誌を地域に回覧し、ホームの存在や役割が理解されるよう努めています。近隣住民との日常的な交流が図られるまでには至っていません。地域でホームの存在や役割が更に理解され、交流が盛んになるよう、積極的な働きかけを期待します。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、理念を解かり易くするため、注釈が書き加えられています。また、玄関やユニット入口など見やすいところに明示し、理念の達成に向けて努力されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体化するため職員全員で目標を掲げ、朝の申し送り時にホーム理念・目標を復唱しています。また、管理者の日常的な指導のもとで、全職員は理念の本質を理解し共有を図り、ケアサービスの提供が行なわれています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の諸行事（廃品回収、町内清掃など）に参加し、年4回町内向けの広報誌を地域に回覧し、ホームの存在や役割が理解されるよう努めています。近隣住民との密なる交流が図られるまでには至っていません。	○	ホームとして地域の人たちとの交流が盛んになるような場面作りや、来訪してもらえる方法を現在検討中です。地域でホームの存在や役割がさらに理解され、交流が盛んになるよう、積極的な働き掛けを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題は、改善計画書を作成し、改善に向けて積極的に取り組まれています。管理者は、評価の重要性と意義を理解しており、評価結果の問題点改善に意欲的に取り組んでいます。		

旭川市 グループホーム あけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成19年5月に第1回の開催があり、ホームの概要や運営状況、スライド上映（ホーム内の日常の様子）、今後の行事予定などが報告され、地域住民・家族から意見・提案などが交わされています。	○	運営推進会議は原則2ヵ月毎に開催し、次回は、今回のサービス評価の結果も議題に含め参加者からの意見・要望を聞き、サービス向上に活かされるよう期待します。また、会議参加メンバーに町内代表だけでなく、幅広い立場の人が参加されることが望まれます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や会議など積極的に参加し、申請書類提出時など適宜訪問して相談などを行なっていますが、行政との連携は十分とは言えません。	○	運営や現場の実情等を積極的に伝え、何ができるかを市の担当者と意見交換を頻繁に行なうなど、協力関係を築かれることを期待します。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した際に日々の暮らしぶりや心身状況を伝え、来訪できない家族には電話やお便りにて伝えていきます。金銭出納状況は、毎月家族に報告し、1～3ヵ月に1回「ホーム便り」を発行し利用者のホームでの暮らしぶりや写真、心身状態などを伝えていきます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口の担当者と外部機関を載せ、ホーム内にも明示し、玄関入口には「意見箱」が設置されています。また、日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるように配慮しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人は、デイサービスや複数のグループホームを展開しており、定期的職員異動、転属が行なわれています。職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を個々に合わせて説明方法を工夫するなど、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮がされています。	○	頻繁な職員交代は利用者、家族、職員の不安や不満を持ちやすい部分であり、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制が望まれます。また、利用者の安心した自由な生活を支え、利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点から、人員増員が望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は人材育成の重要性を認識しており、研修参加費用などを事業所負担とし、年間計画も立てられて、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に参加しています。また、職員間での共有化も図られ、個々のスキルアップへの体制が整っており、かつ実践されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行なっています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者、家族等と十分に面談を行ない見学して頂いた後入居しています。入居始めの期間は、本人がすぐにホームに慣れない場合は、家族に來所して頂くなど、信頼関係を築きながら、利用者及び家族が安心・納得できるよう適切なサービス開始の調整を行なっています。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの得意なことを見極め、声掛けを行ない場面づくりの支援が行なわれています。また、利用者の経験から料理等について教わる関係ができています。利用者の喜び、悲しみ、不安などを共有し、ともに支え合う関係作りに留意し実践しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、利用者一人ひとりの状態・要望を細部にわたり把握しています。職員は、言葉だけではなく、表情からも利用者の思いを汲み取るよう努めています。また、家族・関係者とも話し合いながら利用者本位の生活となるよう検討、日々のケアに活かしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議や、日常的に行なわれる意見交換、またケアカンファレンスで職員の気づきやアイデアなどを集約し介護計画に反映しています。また、家族の来訪時に意見や要望を聞き、計画に反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、利用者の状態変化や必要に応じて本人・家族と話し合い、医療機関とも相談しながら現状に即した見直しを行ない作成しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、医療機関とも連携が取られており、通院の送迎や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が実践されています。また、医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整備しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する掛かり付け医での受診支援を行なっています。また、看護師が常勤しており、利用者は健康面についても気軽に相談することができ、職員は常に利用者の健康状態に配慮しながらケアサービスを提供しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の重要事項説明書に、重度化や終末期に向けた明確な取り決めが明示されています。また、職員で意見交換を行ない方針の共有化が図られており、最大限の支援を行なう体制が整えられています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を他言しないことは職員間で当然の遵守事項として認識されており、職員は、利用者一人ひとりの性格を把握し、プライバシーを損ねることのない対応の徹底が図られています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に対するケアサービスは、ホーム側の都合に合わせるのではなく、利用者の生活歴や体調やペースを大切に、その人らしい生活が送れるよう支援しています。		

旭川市 グループホーム あけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には、スタッフが同席して同じ食事を取りながら楽しく食事ができるよう支援しています。食事の準備や後片付けなど、利用者の得意なこと、関心のあることを把握し、楽しみながら支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴は一応定められていますが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者の状態によりシャワー浴や足浴も行なわれています。また、夜間帯の入浴も可能で夕食後に入浴を希望する利用者もおり対応しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援しており、食事の準備と片付け、生活歴を生かした役割や習慣、レクリエーションなどの楽しみごとなどの実施によって日常の暮らしに張り合いや喜びを見出せるように努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店への散歩、買物、ドライブなど、利用者一人ひとりの希望に沿えるような外出支援を実践しています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していません。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれています。		

旭川市 グループホーム あけぼの

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署と連携を取り避難訓練を実施しています。しかし、町内会や地域住民への働き掛けは行なわれておらず、協力体制を築くまでには至っていません。	○	運営推進会議等を活かし、地域住民の参加・協力を得ながらの避難訓練の実施や災害時に備えた物品の準備をすることが望まれます。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を外部業者に発注し、毎日の食事メニューが決まっており、栄養バランス、カロリーは計算されています。ホーム内で利用者一人ひとりの嗜好を把握し、独自の調整も行なわれています。利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され、職員が情報を共有しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からの眺めもよく明るく快適な空間が提供され、壁には季節を感じさせる手作りの装飾や写真が貼られていました。調度品も家庭的なものが使われており、利用者は思い思いの場所で寛いでいました。気になる臭いもなく、音・光等も適宜調節されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者本人が使い慣れた馴染みの家具・装飾品・手作りの品などが持ち込まれており、ゆっくり寛げるような雰囲気を有しています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。